

I 社会性の指導に関する研究 ××××××××××××××××××

幼児集団にみられる動態の解析

やわらぎ学園保育所 樋口三紀子

保育所において自由な遊びの時間にみられる幼児の自然的行動を観察してみると、彼らは常に集団を形成して遊ぶ傾向の大なることがわかる。それらの集団には、男児のみの集団、女児のみの集団、男女混合集団の三つの型があり、特に、同性同志によって構成される場合（同性集団）が目立って多い。このことについてはすでに本誌に報告したとおりである（第58巻、第9号）。

しかし遊びにみられる幼児集団の性的組成は観察の時々によって著しく異なり、幼児集団の組成は時と共に著しい動きのあることが推察されるのである。そこで著者は、幼児集団の組成はどのような動きを示し、どのように変化するか、またその動きはいかなる要因にもとづくものであるかなどの諸点についての解析を試みた。その結果は次のとおりである。

① 集団の動きを連続的に観察した結果、次の動態型が著しく目立った。

一型 女児集団 ↓ 男女混合集団 ↓ 男児集団
二型 男児集団 ↓ 女児集団

そして女児集団の崩壊は男児集団の働きかけによる場合が多く、男児集団の崩壊は他の遊びにより興味をもった時、或いは保育の制止等特定条件による場合が多く観察された。

② 園内における幼児の遊び集団を総合的に観察調査すると、女児の遊びの種類が男児によって著しく影響をうけていることが数的に証明された。一般に男児集団の働きかけによって女児集団が攪乱されることは、種々なる角度からの調査によって説明できる。

③ 男児集団の接近による女児集団の崩壊と男児集団の形成は、飽きによる遊びの自然的交替によることは稀で、殆んどの場合男児集団の一方的働きかけによるものである。

④ 男児集団の女児集団への働きかけについて、遊びの時間から考察すると、真の遊びの時間（遊びに飽きるまでに要する時間）は、遊びの種類、性その他の条件によっても異なるが、女児の遊びの時間は男児の働きかけによって短縮される傾向がある。

⑤ 更に男児の干渉を全く除いた場合の女児集団の遊具利用率は、男女相互要因を含んだ場合のそれと著しく異り男児集団の影響大なることが裏付される。

⑥ 一般に男児集団は女児集団より優位であるが、女児の異質的な面の表われによって女児集団が優位に見える場合がかなり多い。

以上のように、一見非常に繁雑に見える幼児集団の動態も、解析の仕方如何によって、その動きの要因が明らかになってくることはきわめて重要なことである。また、幼児集団の動きの多くが男児女児各集団の間にみられる相互関係或いは遊びに対する興味の性的相違等に由来していることは、保育学上きわめて注目を要することと
思う。

しかし幼児集団の動態はこれら以外の多くの要因によっても影響をうけていることが、明らかにしつつある。たとえば保育所内の設備、遊具玩具の数、保育の言動などは重要な環境要因である。これらの多くの要因がどのように組合わさるかによって幼児は種々な動態を示すものと考えられる。これらについては更に追求していく必要があると思う。

私達の職場においては、男女共同の生活の場である保育所内で男女差をどのように扱うか、集団の動態は自然のまままでよいか、男女各集団の間にみられる相互関係をどのように理解し、どのように扱うか、設備はどの位が理想かなど多くの難問がひかえており、これらのことを保育にどう取り入れてゆくかは並々ならぬ問題である。しかし、それらは幼児の実態を一層正しく理解することによって解決の道がひらけるものと思う。
(大会発表論文抄録77-79頁)

ボスと積木遊び

(積木遊びにおける幼児集団の比較 その四)

東京足立区立関屋幼稚園 清水 エミ子

入園して来た幼児達の積木遊びを見て、今までの研究の結果(集団に入りにくい内向的な幼児が積木を好む)とはちがった傾向の子達が積木遊びの場に多くいることにおどろいた。その子達の積木遊びをみていると直接及び間接的なボスの破壊行為が目立って行なわれているのに二度びっくりしたのであった。

そこでこの幼児達を積木遊びを通してボスの解消ができるのではないかと考え今までの研究を基に観察記録してみた。

へこんな時ボスの力は強くなっていた

一学期間自由遊びの時の積木遊びを見つめていると「おまえの船機械入る所ないの、エンジンやモーターどこ入れるんだよ。そこ、そうやっちゃだめじゃないか、だめだよ」と、自分で体を動かさず、理くつを言っ自分の思うように命令している子達、

「ばかやろー、なんだよ、こんなことして」と、自分の思うままに行動し思うようにならないと手当たり次第打ったり人の物を取ったりで争いを起してしまう子達の二つの傾向の違うボス達が一しょ(一組に)になっていることがわかり、この体を動かさない、理くつ(言語)によるボスと、行動による暴力的ボスが一しょになった時が、特にボスの力が大きく強くなることを、発見したのである。

そこでこの二つの傾向の違う幼児をはずすことによってボスの力が弱まるのではないかと見通しを立て二学期から次の二つのグループを構成した。

Aグループ(行動的ボスグループ)

Bグループ(言語的(理くつ)ボスグループ)(同性検査友達の好ききらい、母親との話し合いを基礎資料にしてグループをきめた)

これに今までの研究方法を参考に積木遊びをさせ、自由遊びの時、同じ課題をあたえて、比較観察してみた。